

事後評価書

緊急地方道路整備事業：水ヶ江町枝吉線

《様式》

要因 事業	(1) 事業概要	(2) 事業による環境の変化	(3) 事業を巡る社会経済情勢の変化	(4) 事業により整備された施設の維持管理状況	(5) 県民の意見
街路事業	<p>事業名：緊急地方道路整備事業 箇所名：佐賀市 水ヶ江～枝吉 路線名：水ヶ江町枝吉線 工期：当初工期 S63～H8 変更工期 S63～H13 (一部歩道のみH19年完了) 事業費：当初事業費 45.7億円 変更事業費 66.0億円 事業内容：延長 L=1,400m, 幅員 W=16.0m 車道2車線両側歩道の現道拡幅</p> <p>事業の背景 当該路線は、龍谷高校前から市東部住宅地を通り東部環状線を結ぶ路線であり、佐賀都市計画区域マスタープランの中で、円滑な交通処理の確保と良好な市街地の形成に寄与する路線として位置づけられる重要な路線である。</p> <p>整備前の状況として、車道が狭く歩道もないことから、円滑な交通が阻害され、歩行者や自転車も危険な状況となっていた。</p> <p>事業の目的 このため、交通混雑の解消と歩行者・自転車の安全確保を目的とし、街路整備による車道2車線両側歩道の現道拡幅をおこなった。 また、地元の風習である隣接する河川(佐賀江川)での精霊流しに配慮して、河川への階段を設置する等、地元の要望を取り入れた整備を行っている。</p> <div data-bbox="222 1438 727 1921">  <p>整備前の状況</p> <p>歩道が無く危険！！</p> <p>車道が狭いため交通に支障！！</p> </div>	<p>生活環境 幅員の狭い道路であったが、整備により交通だけでなく散歩等にも活用できる道路となった。</p> <p>社会文化環境 地元の祭りである精霊流しに配慮し、文化の保全にも考慮した整備を行っている。</p> <div data-bbox="786 598 1187 892">  <p>整備前の状況</p> </div> <div data-bbox="1320 598 1721 892">  <p>整備後の状況</p> </div>	<p>佐賀市と諸富町が合併し合併市町村の間の連絡路として利用されている。 近隣に大型商業施設が進出し、アクセス路として利用されている、 佐賀市の事業との連携により道路網が形成され、ネットワークによる交通処理が実現された。</p> <div data-bbox="1365 997 1765 1291">  <p>自動車交通の円滑化</p> </div> <div data-bbox="1365 1312 1765 1606">  <p>整備された歩道</p> </div> <div data-bbox="1365 1627 1765 1921">  <p>着脱式の防護柵</p> <p>階段の設置</p> </div>	<p>県管理状況 県道のため、県による道路清掃や街路樹の剪定等の維持管理を実施している。</p> <p>地元の取り組み 地元の自主的な取り組みとして地元自治会(町内会)により、年に3回のゴミ拾いや草取り等の清掃活動が行われている。</p> <p>維持管理の状況 地元自治会長への聴き取りの結果、維持管理について管理不足等で問題は生じていないとのこと。</p>	<p>歩道が確保され、前に比べ歩行者・自転車共に安全になった。</p> <p>2車線の車道により、自動車の利用が便利になった。</p> <p>精霊流し用の階段については、位置や安全性等、県の街路事業、河川改修と調整して設置することが出来た。</p> <p>町内会の清掃活動と県の維持管理が同時期に行われる場合があり、県の清掃後にすぐに町内会で清掃を行ったことがある。時期の調整などできないか。</p>
		<p>(6) 事業の効果</p> <p>交通処理</p> <ul style="list-style-type: none"> 2車線の車道が確保され、中心市街地～東部地域のアクセスの強化が図られた。 また、主要な交差点に右折レーンが設置され交通処理機能の向上が図られた。 佐賀市街路事業と連携し道路網としての交通処理を実現している。 <p>安全の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 歩道が整備され、歩行者・自転車の安全が確保された。 バリアフリーの観点から点字ブロックを設置 <p>良好な市街地の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> 整備前は幅員が狭く密集した市街地であったが、街路整備により、緊急車両の通行等の防災面や土地の利活用について環境改善がみられる。 街路樹により沿道を緑化し、景観への配慮をおこなっている。 街路樹には落葉樹を選定し、夏場の木陰の創出、冬場は日当たりの確保に努めた。 <p>その他の波及効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 沿道の大隈重信記念館や佐賀市内の県立美術館、県立図書館、佐賀城本丸歴史館などへのアクセス強化により、観光機能が向上した。 地元の祭りである精霊流しに配慮し、地域の文化活動を考慮した整備をおこなった。 	<p>(7) 地域住民との関わり</p> <p>地元の風習である精霊流しに配慮し、道路から河川へ降りる階段を設置する等、地元要望を取り入れた整備を実施している。</p> <p>精霊流しの前後や季節毎に、地元の自主的な美化活動が行われている。</p> <p>また、階段の設置にあたっては、地元と十分に調整し、着脱可能な防護柵を設置するなど、安全性と利便性に考慮した整備をおこなっている。</p> <p>その結果、例年8月の精霊流しには現在も約100艘の精霊船が流され、多くの出店や見物人が集まり、地元の夏の風物詩として親しまれている。</p> <div data-bbox="1825 1533 2300 1900">  <p>精霊流しの模様(例年8月)</p> </div>	<p>(8) 今後の課題</p> <p>完成までに約20年と非常に長い期間がかかっており、土地収用法の活用等、適切な対応が必要である。</p> <p>地元町内会による清掃活動と、県による道路清掃が別々の取組として行われており、両方で時期や内容について調整を行いより合理的な維持管理を行っていく必要がある。</p> <p>(9) 新規・再評価への反映</p> <p>地元町内会では、精霊流しの前後での清掃活動をおこなうなど、維持管理に対して積極的な取組が行われている。</p> <p>こういった地域の風習・文化を重視し地元の方々の意見を踏まえた整備を行い、公有財産に対する共有の意識が生じることで、官民協働での維持管理が可能ではないかと考えられる。</p>	